

サステナビリティ
コミュニケーションブック
2021



テルモ株式会社

東京オフィス
〒163-1450 東京都新宿区西新宿3-20-2
東京オペラシティタワー

© テルモ株式会社 2021年12月



企業理念

医療を通じて社会に貢献する

私たちは、医療の分野において価値ある商品とサービスを提供し、医療を支える人・受ける人双方の信頼に応え、社会に貢献します。

コアバリューズ

Respect（尊重）—— 他者の尊重

私たちは、アソシエイト、お客様、そしてビジネスパートナーに対して敬意と感謝の気持ちをもって接します。多様な文化や個性を理解し、異なる意見や社会の声にも広く耳を傾け、自らの成長に繋げていきます。

Integrity（誠実）—— 企業理念を胸に

私たちは、人々のいのちや健康に関わる企業のアソシエイトとして、常に、誠実に使命感をもって行動します。日々努力し、全てのステークホルダーとの間に、確かな信頼を築いていきます。

Care（ケア）—— 患者さんへの想い

私たちは、自らの活動が、患者さんにつながっていることを常に忘れず行動します。医療に携わる人々を深く理解することに努め、患者さんのより良い未来の実現をともに支えています。

Quality（品質）—— 優れた仕事へのこだわり

私たちは、安全と安心の医療を提供するために、常に現場視点で課題を捉え、解決策を見つけ出します。製品品質のみならず、供給やサービスなど、全ての活動におけるクオリティの向上を徹底的に追求します。

Creativity（創造力）—— イノベーションの追求

私たちは、未来に挑戦する風土を大切に、好奇心と情熱をもって取り組みます。医療現場のニーズを的確に捉え、価値ある製品やサービスを最適なタイミングで届けていきます。

The logo for Stride Ahead's 100th anniversary. It features the words "Stride Ahead" in a green, elegant serif font, with "100th" written below it in a larger, flowing cursive script of the same color. A thin green line arches over the top of the text.

2021年テルモは創立100周年を迎えました。

私たちテルモのはじまりは100年前。
ひとりでも多くの人々に届けたいと願い世に送り出した、
より安全で良質な国産の体温計でした。

それ以来「医療を通じて社会に貢献する」という企業理念のもと、
医療現場という人の命に関わる最も大切な場所で働く医療者と並走しながら、
革新的な開発と誇れる品質で世界の医療をサポートしています。

Stride Ahead
その力強く踏み出す大きな一歩がより良い未来の医療へ繋がると信じて。

奇しくも100年を経て、世界がふたたび新たな試練と対峙する今。
私たちは改めて自らの使命を胸に、これからもとどまることなく
医療の限界に挑み続けてまいります。

この先の100年も、熱い想いで明日の医療をより良いものへと変えていく。

私たちはテルモです。

Contents

1 企業理念、コアバリューズ

4 サステナビリティコミュニケーションブックについて

5 トップメッセージ

7 At a Glance

テルモグループの現在

9 医療課題の解決

Enriching LIFE with healthcare solutions

15 多様な人財の活躍

誰もが個性と能力を発揮し、活躍できる組織を目指して

19 環境への取り組み

健やかな地球環境を未来へ受け継ぐために

23 地域社会への貢献

地域社会のいのちと健康を支える

サステナビリティコミュニケーションブックについて

テルモは、企業理念「医療を通じて社会に貢献する」の実現に向けた事業活動をステークホルダーの皆様に分かりやすく報告し、社会とのコミュニケーションを促進することを目的に、各種のコミュニケーションツールを作成しています。「サステナビリティコミュニケーションブック」では、幅広いステークホルダーの皆様を対象に、持続可能な社会の実現とテルモグループの持続的成長に寄与する取り組みを、分かりやすくコンパクトにまとめてご紹介しています。

「サステナビリティレポート」では、主に株主・投資家の皆様向けに発行している「テルモレポート」を補完するツールとして、サステナビリティの重点活動テーマに基づくさまざまな取り組みを、関連データと併せて幅広く掲載しています。

サステナビリティコミュニケーションブックの位置付け





次の100年を見据えて、
価値あるソリューションを創造し、
医療の進化に役立つ存在を目指す

ステークホルダーの皆様には、日頃よりテルモグループの事業活動にご理解、ご支援を賜り、心より御礼申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方々に哀悼の意を表しますとともに、罹患された方々には心よりお見舞い申し上げます。

今、世界の医療は大きく変わろうとしています。あらゆる技術の進化が医療の「パラダイムシフト」を加速させ、足もとでは新型コロナウイルス感染症の世界的流行が、新しいテクノロジーの採用を促しています。社会全体としても、人生100年時代を迎えて解決すべき医療課題は山積し、重大な転換点を迎えています。

当社は2021年9月17日に創立100周年を迎え、次の100年に向けて歩み始めました。これに合わせて、「サステナビリティ基本方針」を制定いたしました。医療を取り巻く環境が大きく変化する中でも、テルモが長期的な視点から医療上の課題解決に取り組み、社会に価値を提供し続けていくための指針となるものです。「医療を通じて社会に貢献する」という企業理念に基づき、医療の進化と患者さんのQOL向上に取り組むことで、テルモの存在意義 (Purpose) に適う事業活動を続けてまいります。

具体的には、「一人ひとりの人生に寄り添う医療の提供」、「持続可能な医療システムの共創」、「医療技術・サービスの普及、医療アクセスの向上」を社会価値創造に関する重点活動テーマにかかげました。これからはモノとサービスにデータを組み合わせて医療を最適化する取り組みが求められます。製品軸から顧客軸へ発想を転換し、予防から治療、予後のケアに至るペイシェントジャーニーに寄り添いながら、より効果的で、価値の高いソリューションの提供を目指します。また、IoTにAI、ロボティクスなど、デジタル活用の動きは医療分野においても加速しています。テルモはこれらの変化に対応すべく、グループを挙げてデジタルトランスフォーメーションを推進し、さらなる成長を目指していきます。

さらに、地球環境や人権問題など、社会から求められるさまざまな課題にも業界のリーディングカンパニーとして積極的に取り組み、幅広いステークホルダーの期待に応えてまいります。ステークホルダーの皆様には今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長CEO

佐藤 慎次郎

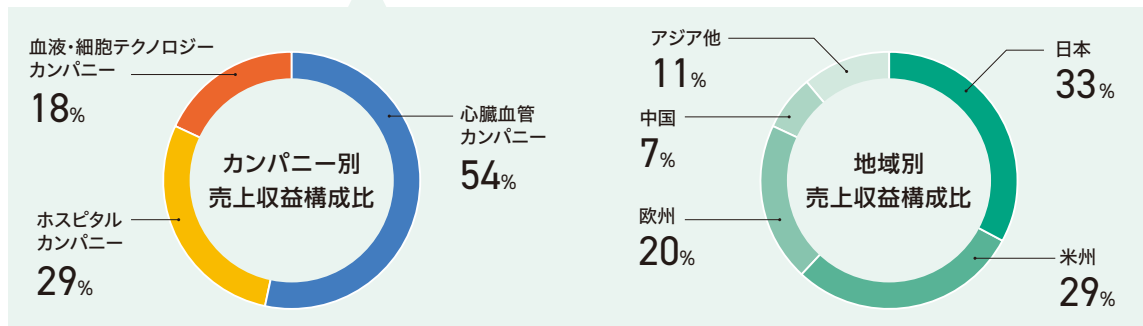
「サステナビリティ基本方針」および重点活動テーマについては、こちらをご覧ください。
テルモグループのサステナビリティ <https://www.terumo.co.jp/sustainability/management/>

At a Glance

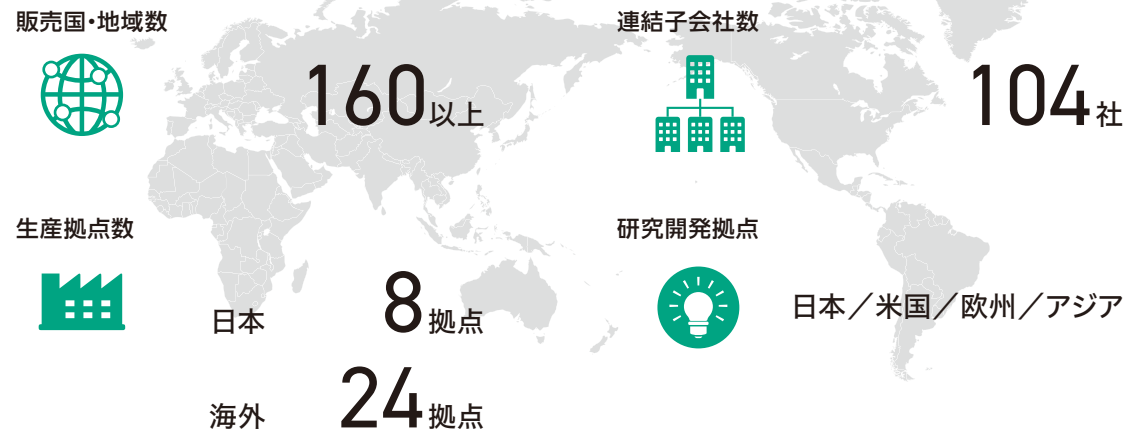
テルモグループの現在 2020年度(2021年3月期)

業績(連結)

売上収益 **6,138** 億円 調整後営業利益 **1,159** 億円



事業/組織の規模



イニシアチブへの参画

国連グローバル・コンパクト

テルモは、国連の提唱する「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」に関する10原則からなるグローバル・コンパクトの取り組みに賛同し、2012年に署名を行いました。



SBTイニシアチブ

テルモグループの2030年度の温室効果ガス排出量削減目標は、SBTイニシアチブより、「2°Cを十分に下回る水準」として認定を取得しています。

注:2021年11月に目標を「1.5°C水準」に引き上げ、「1.5°C水準」での認定を申請中



人財

アソシエイト(社員)数
テルモグループ

26,482 名

テルモ株式会社

5,247 名

女性アソシエイト比率*1

17.4 %

女性管理職人数/比率*2

69 名 / **8.1** %

男性育児休業取得人数・取得率*3

89 名 / **63.1** %

*1、*2、*3 対象:テルモ株式会社

環境

温室効果ガス排出量削減 中長期目標*4
(2018年度比)

Scope 1+2 **50** %削減 (2030年度) カーボンニュートラル (2040年度)

Scope 3 **60** %削減 (2030年度) 売上収益当たりの排出量

水使用量(取水量)削減 中長期目標*5 (2018年度比)

売上収益当たりの水使用量(取水量) **20** %以上削減 (2030年度)

廃棄物リサイクル率 中長期目標*6

90 %以上 (2030年度)

*4、*5、*6 対象:テルモグループ(国内事業所、海外生産事業所)

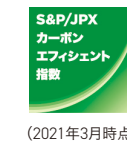
社外からの評価

FTSE4Good Index Series
FTSE Blossom Japan Index

FTSE4Good Index SeriesはグローバルインデックスプロバイダーであるFTSE Russell社が作成した、環境、社会、ガバナンス(ESG)の対応に優れた企業で構成されるインデックスです。FTSE Blossom Japan Indexは、同社が作成した、ESGについて優れた対応を行っている日本企業で構成されるインデックスです。



S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数



(2021年3月時点)

SOMPOサステナビリティ・インデックス



(2021年6月時点)

健康経営銘柄



(2014年度より7年連続)

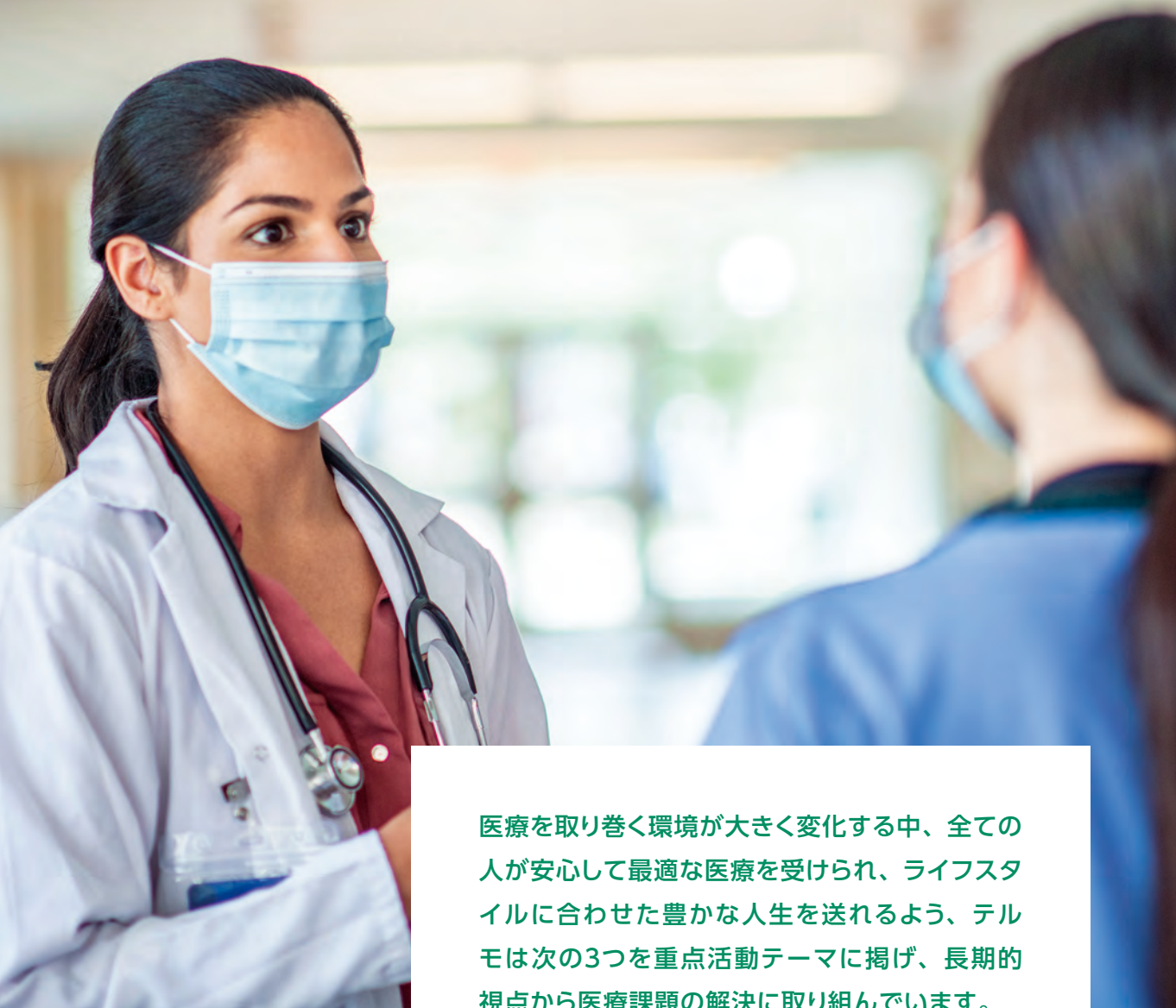
コーポレート・ガバナンス・オブ・ザ・イヤー®



(2020年度受賞)

医療課題の解決

Enriching LIFE with healthcare solutions



医療を取り巻く環境が大きく変化中、全ての人が安心して最適な医療を受けられ、ライフスタイルに合わせた豊かな人生を送れるよう、テルモは次の3つを重点活動テーマに掲げ、長期的視点から医療課題の解決に取り組んでいます。

- 一人ひとりの人生に寄り添う医療の提供
- 持続可能な医療システムの共創
- 医療技術・サービスの普及、医療アクセスの向上

糖尿病治療への貢献を目指して

患者さんに寄り添う製品・ソリューションを提供

糖尿病は合併症（網膜症、神経障害、腎臓病、心筋梗塞、脳卒中など）を引き起こすことが知られており、患者さんの病態に合わせた治療が必要な疾患です。2019年時点において、世界全体で約4億6300万人^{*1}の患者さんがいるとされています。日本でも厚生労働省の調査では「糖尿病が強く疑われる者」（糖尿病有病者）は1997年の調査以降増え続けており、2016年には約1,000万人^{*2}と推計されています。

糖尿病の治療では症状の進行や合併症の発症を防ぐことが重要であり、患者さんが日々の血糖を適切にコントロールすることが求められます。毎日のケアの大変さだけでなく、日常生活における制限や、社会の偏見など、身体だけでなく精神的な負担も少なくありません。

テルモは1982年に針植え込み式インスリン用シリンジ、1993年に血糖測定器、2005年には世界一細いインスリン用注射針を発売するなど、約40年にわたり、糖尿病の診断・治療に必要とされる製品を提供してきました。糖尿病患者さんの日常生活や気持ちに寄り添い、患者さんと医療従事者双方にとって価値のある製品・システムを開発・提供することを目指しています。

2005年に発売した世界一細いインスリン用注射針は、日々の注射に伴う患者さんの肉体的・精神的な負担を軽減し、QOL（Quality of life：生活の質）の向上に貢献することを目指して開発された製品です。針を穿刺する際の痛みを軽減するために、針を細くするとともに、針を「突き刺す」のではなく、カミソリのような鋭い刃先で「小さく切る」ことを目指し、先端を左右非対称の刃面構造としました。

2018年には日本初のパッチ式インスリンポンプを発売しました。インスリンポンプは、1型糖尿病やインスリン分泌が著しく低下した2型糖尿病の方にインスリンを投与するために使用されます。テルモは、患者さんが仕事や家事などの日常生活を普段どおり行っていたりできるように、インスリン注入部とポンプをつなぐチューブをなくし、ポンプ機能を注入部に集約させてパッチ式の皮膚に貼り付ける構造とし、操作もリモコンで行えるようにしました。

このような幅広い製品群に加えて、一人ひとりの患者さんの状態に合わせた治療を支援していくために、AIやデジタル技術を活用したITシステム・デジタルソリューションの開発にも力を注いでいます。

2020年には、日本においてMICIN社と、糖尿病のデジタル治療支援システムの共同開発を開始しました。個々の患者さんの血糖値や食事・運動・服薬などの情報に基づき糖尿病治療を支援することを目指しています。

海外では、2020年にフランスのDiabeloop社とインスリン自動投与制御システムの共同開発を開始しました。持続血糖測定器で連続的に測定した皮下の間質液中のグルコース濃度に連動して、患者さんの状態に合わせたインスリン量



糖尿病治療でのインスリンの自己注射などに使われるペン型注入器用ディスプレイ針



パッチ式インスリンポンプ



装着イメージ

医療課題の解決

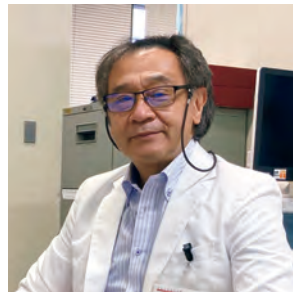
Enriching LIFE with healthcare solutions

が、インスリンポンプから持続的に投与されるシステムです。さらに、2021年には、米国のGlooko社と糖尿病治療のデジタル化推進を目指して提携しました。Glooko社は、血糖値やインスリン投与量など、糖尿病治療に関連するデータを一元管理できる情報管理システムを開発しており、現在27か国にサービスを展開しています。テルモのパッチ式インスリンポンプや血糖測定器のデータをシステム上で管理し、可視化することで、これらのデバイスを使用している患者さん自身の疾病管理や、医療従事者の診察や指導などに活用されることを目指しています。

2021年はインスリン発見から100年目の年であり、テルモも創立100周年を迎えます。テルモはこれからも、糖尿病患者さんの日常生活や気持ちに寄り添い、患者さんと医療従事者双方にとって価値のある製品やシステム・ソリューションを提供することで、患者さんのより良い未来の実現を支援していきます。

*1 国際糖尿病連合 (International Diabetes Federation, IDF) IDF Diabetes Atlas 9th edition 2019, Estimated number of adults with diabetes <https://diabetesatlas.org/en/>

*2 厚生労働省 平成28年(2016年)「国民健康・栄養調査」 <https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000177189.html>



大阪市立大学 大学院医学研究科
発達小児医学 講師

川村 知行 先生

医療従事者の声

私はこれまで1型糖尿病患者さんの診察を30年以上続けてきました。1型糖尿病は、毎日数回の血糖測定と食事・運動に合わせたインスリン注射が絶対必要です。血糖値が目標範囲内に入るように、毎日自己管理が必要です。管理が疎かになると将来の合併症リスクが高まります。1型糖尿病は、生活習慣や体質と関係なく発症します。元気な人が急に発症するので、心理的負担は大きく、血糖測定とインスリン注射も痛くつらいものです。

1型糖尿病治療の関連製品として、テルモ社の血糖測定器やインスリン注射針、そして、私も開発の手伝いをさせていただいたパッチ式インスリンポンプがあります。このようなテルモの製品を使って感じることは、技術・開発者と患者さんや我々との距離の近さであり、それが国産メーカーであることの強みだと思います。いくつかの製品で、患者さんに寄り添い意見を聴く機会を作り、その意見を迅速に取り入れた改良をさせていただいたことを経験しました。これからもテルモ社が多方面にその強みを発揮されることを期待しております。

細胞治療用製品の研究開発・製造を支える技術

効率化と品質の向上を支援

手作業による細胞治療用製品の製造に自動化を適用

採取した細胞を加工・培養して治療に用いる細胞治療や、遺伝子あるいは遺伝子を導入・改変した細胞を体内に投与して治療を行う遺伝子治療は、新たな治療法としてさまざまな疾患領域で研究開発が行われ、実用化も着実に進んでいます。例として、白血病の新たな治療法として承認されたCAR-T細胞治療が挙げられます。CAR-T細胞治療は、患者さん自身の血液から採取したT細胞にCAR（キメラ抗原受容体）と呼ばれるタンパク質の受容体を導入し、増殖させた後に患者さんの体内に戻す自己免疫療法です。この他にも、健康なドナーの骨髄から採取した間葉系幹細胞を培養し、患者さんに移植する治療も細胞治療の例として挙げられます。

細胞治療や遺伝子治療に用いられる製品の製造には、細胞の採取や培養（増殖）をはじめ、最終製剤化とバッグへの充填、作業工程データの記録と文書化など、膨大な作業が必要です。現在、これらの作業の多くは手作業で行われて

おり、時間がかかるだけでなく、クリーンルームなどの設備にかかる費用や人件費、工程中の汚染リスク、細菌の混入リスクなど多くの課題を抱えています。

プロセスの自動化で細胞治療用製品の研究開発・製造に貢献

テルモの3つのカンパニーの1つである血液・細胞テクノロジーカンパニー (Terumo Blood and Cell Technologies) は、長年にわたり血液および細胞の採取・処理の自動化を進めてきました。これまでの経験を通して培った技術を生かし、細胞採取から患者さんの治療に至るワークフローを効率化する製品を提供することで、手作業の多い細胞治療・遺伝子治療用製品の研究開発・製造に貢献することを目指しています。

血液・細胞テクノロジーカンパニーの遠心型血液成分分離装置は、ドナーや患者さんの血液を体外循環させ、遠心分離技術により特定の血液成分を採取もしくは除去し、それ以外の成分を再び体内に戻すアフレーション治療の際に使われています。最近では、CAR-T細胞治療など、さまざまな細胞治療の原料となる細胞の採取にも用いられています。

細胞増殖の工程では、品質を維持しながら効率的に細胞を増やすことが重要です。血液・細胞テクノロジーカンパニーの細胞増殖システムは、細胞が外気に接触しない閉鎖系の滅菌済みディスポーザブル細胞増殖セットを搭載しています。手作業だと手間がかかり、エラーが発生しやすい細胞への培地の供給、老廃物の除去、酸素の供給、二酸化炭素の除去などの作業を自動化することで、細胞の品質を維持したまま、従来の手作業による培養と比べて飛躍的に効率的かつ安定的な培養（細胞増殖）の実現を目指しています。

細胞採取や培養の工程は自動化が進みつつある一方、充填・仕上げの工程は手作業で行っていることも多く、細胞の生存性や機能性に影響を与える可能性があることが課題とされています。血液・細胞テクノロジーカンパニーの充填・仕上げシステムは、充填工程を自動化するとともに、製剤の種類や必要な量に応じて設定を変更することが可能です。作業工程が電子的に記録されるため、バイオ医薬品などの製造方法に関する現行医薬品適正製造基準 (cGMP) への準拠も容易になります。

血液・細胞テクノロジーカンパニーでは、このような製品をシステムとして提供することで、細胞・遺伝子治療の発展・普及に貢献し、患者さんの治療の選択肢を増やすことを支援していきます。

細胞治療のサイクル(イメージ)



病院での細胞採取、製薬会社などでの細胞治療用製品の製造、バッグへの充填・仕上げ、凍結、患者への投与に向けた病院への凍結製品の輸送が含まれます（治療によりプロセスは異なります）



細胞増殖システム



充填・仕上げシステム



Scientific Affairs Director,
Terumo Blood and Cell Technologies
Dalip Sethi, Ph.D.

アソシエイトの声

細胞治療用製品の製造から患者さんに届けるまでの過程は複雑でロジスティクスの面でも困難を伴うプロセスです。細胞の製造・製剤化は研究機関で行われることが多く、エラーのリスクを伴う労働集約的な作業が含まれることが一般的であり、プロセスの自動化が求められています。血液・細胞テクノロジーカンパニーの細胞増殖システムと充填・仕上げシステムは、手作業で行われているプロセスの自動化に貢献します。これらのシステムは、細胞が外気に接触しない閉鎖系のシステムであるため、汚染リスクの低減も期待されます。このような技術により、細胞治療用製品の研究・開発者がプロセスをシンプルにすることを支援するとともに、必要とされる治療を患者さんに届けるために、プロセスの正確性や一貫性、信頼性、再現性を高めることにも貢献します。

未来の医療に貢献するイノベーションの創出を目指して

テルモ・ベイエリア・イノベーションラボ

多様な国籍・バックグラウンドを持つ専門家集団

テルモは、次世代の医療ニーズにいち早く応えるため、製品によって最適な地域に研究開発拠点を設置しています。2018年には、世界中から技術とエンジニアが集う、米国カリフォルニア州のシリコンバレーに、新たな研究開発拠点であるテルモ・ベイエリア・イノベーションラボ(Terumo Bay Area Innovation Lab. /TBAIL)を設立しました。

TBAILは、2017年1月からテルモグループの一員となった米国のカリラメディカル社(Kalila Medical, Inc./KMI)と、日本のコーポレートR&D部門の出向者が所属していたシリコンバレーラボ(Silicon Valley Lab/SVL)という、ともにベイエリアに拠点を構える2つの組織を統合して設立された研究開発拠点です。主にテルモの3つのカンパニーの一つである心臓血管カンパニーの製品開発を担い、研究開発、パイロット生産、ブリッジ生産(大規模生産をする前のつなぎとしての小規模生産)を中核業務に、約50名のアソシエイトが勤務しています。

多様な国籍・バックグラウンドで構成されたアソシエイトたちは、医療機器に特化したキャリアを積んできたメンバーが多く、一人ひとりが専門知識・技術を持つ専門家集団です。スタートアップ企業のように、製品化を目指してお互いの技術やノウハウを持ち寄り、協力しながらスピーディーにプロジェクトを推進しています。



テルモ・ベイエリア・イノベーションラボ(TBAIL)



TBAILで働くアソシエイトたち

シリコンバレーの地の利を生かし、未来医療への貢献を目指す

シリコンバレーには、医療機器分野でも新しい技術を持つスタートアップや、生産設備を保有して生産を担う企業、米国の医療現場とのコラボレーションや薬事申請を得意とするコンサル企業などが数多く存在し、産業クラスターが形成されています。

テルモでは、このような環境を生かして新規技術・アイデアの探索や、製品の初期開発を推進するために、2013年にシリコンバレーのベンチャーファンドに出資、2014年には病院内に立地する開発子会社テルモメディカルイノベーション社(TMI)を設立し、活動を行ってきました。そして2018年に「誰でも使えるテルモR&Dキャンパス」というコンセプトでTBAILを設立しました。TBAILにはTMIで初期開発を進めていた開発テーマが移管されるとともに、スタートアップやアカデミアとの共同開発などにも活用しながら、グループ全体の研究開発をよりイノベティブかつスピーディーに推進することが期待されています。

これまでTBAILでは、心臓血管や下肢血管疾患のカテーテル治療に用いられるデバイスを中心に開発を進めてきました。その中で、カテーテルアブレーションと呼ばれる不整脈の治療の際に使用されるステーラブルシースは米国や日本などで販売を開始し、医療現場で使われています。今後はテルモグループ内での技術連携や、心臓血管カンパニー以外のテーマにも引き続き積極的に取り組むとともに、バイオテクノロジーやデジタルヘルスといった、未来の医療に欠かせない分野での技術探索・開発も強化し、未来の医療に貢献する新たなイノベーションの創出を目指します。



Principal R&D Engineer,
Silicon Valley Lab
多田 裕一

アソシエイトの声

私たちは、医療現場のニーズを基に新たに開発した製品を最大市場の米国で上市すべく、活動の拠点を湘南からTBAILへと移しました。難しい技術課題などに直面することも少なくありませんが、異なる専門性や文化的背景を有する現地アソシエイトたちと共に笑顔を絶やさずポジティブシンキングで乗り越えています。また、未来医療の実現に向けた新技術の探索、スタートアップとの提携を通じた製品開発などにも取り組んでいます。これからも、挑戦と試行錯誤を是とするコーポレートR&Dの本領を発揮して、次の時代に必要とされる医療の創出に貢献していきます。



TBAIL Director/Site Leader
Irene Tan

TBAILは小規模な組織なので、私は発売したデバイスの製造や4つの研究開発プロジェクトの設計管理を兼務しています。少人数の現場では、各プロジェクトのメンバーが機器やアイデア、そして過去の経験を共有することができ、それが現在のプロジェクトに生かされていると実感しています。アソシエイトはお互いに協力的で、コミュニケーションも良好です。私はそれぞれのプロジェクトで自分の経験を率直に伝えて改善すべき点を提案するとともに、品質手順が守られていることを確認しています。これからもプロジェクトチームを効率的に導くことで、将来のテルモ製品の設計、試験、製造から発売に至る各プロセスに貢献していきたいと思っています。

多様な人財の活躍

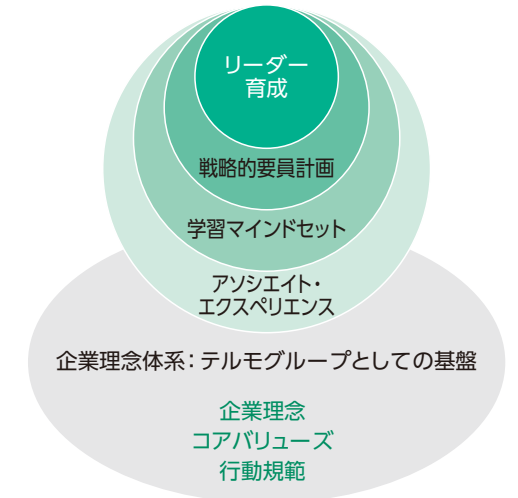
誰もが個性と能力を発揮し、活躍できる組織を目指して

テルモグループでは、社員をともに働く仲間として「アソシエイト」と呼んでいます。テルモに集う世界中の多様なアソシエイトが、自分らしくいきいきと働き、学び、成長することでテルモも成長します。グローバルに人財戦略を進め、アソシエイトの活躍を支援することで、グローバル経営を進化させます。大切な「財産」であるアソシエイトが「医療を通じて社会に貢献する」という企業理念により共感を深め、テルモの存在意義 (Purpose) を共有することで、企業価値向上を実現します。

テルモグループの人財育成

テルモグループの成長戦略を実現するためには、人財の強化が不可欠です。そのためにグループの経営と各事業を支える人財戦略を展開しています。具体的には、グローバルビジネスを支える多様なリーダーの活躍・育成に加え、今後の経営戦略を見据えた組織全体の新たなケイパビリティを構築すべく、戦略的要員計画にも注力していきます。また、アソシエイト一人ひとりが常に新しいことを学び続ける“学習マインドセット”を根付かせ、継続的成長を支援することで、アソシエイトが持てる能力をフルに発揮できる環境を構築すること。そしてより良いアソシエイト・エクスペリエンスに結び付けるべく、事業・機能・地域を超えて効果的に協働することも重点的に推進しています。

グローバル人財戦略



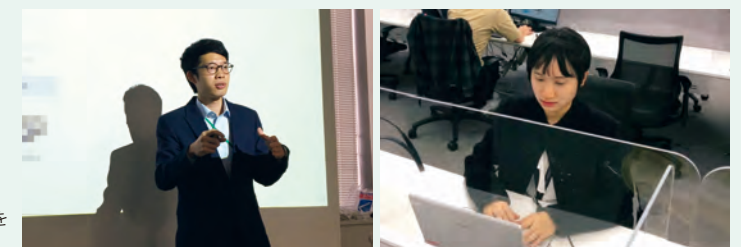
TOPICS

グローバル経営を牽引する人財の育成

テルモグループでは、アソシエイトのグローバルな活躍を支援するさまざまな取り組みを行っています。その一つとして、将来のビジネスチャレンジに必要なリーダーのスキル・コンピテンシーを定義し、それらを身に付けたグローバル経営人財の育成を目的とした「Global Leadership Development Program for Executives」を2019年度より開始しました。国内外問わず選抜された、将来のテルモグループの経営人財候補となるアソシエイトが協業し、テルモにとっての新しい価値を生み出すことにチャレンジする約1年半の研修プログラムです。

また、国籍を問わず優秀な人財を採用するために、海外大学・外国籍学生を対象としたグローバルインターンシップを2019年度にスタートしました。日本でテルモについて学びながら、業務に携わる経験を経て、2020年度に台湾、ベトナム出身の2名の学生が入社しました。

グローバルインターンシップを経て入社したアソシエイト



多様な人財の活躍

誰もが個性と能力を発揮し、活躍できる組織を目指して

ダイバーシティ&インクルージョン

テルモグループでは、日本発のグローバル企業として、ダイバーシティ & インクルージョンをグループ共通の基盤として位置付けており、人種、国籍、性別、宗教、障がいの有無等にかかわらず、多様な人財を受け入れ、個性をお互いに尊重することで、アソシエイトと組織がともに成長したいと考えています。テルモのコアバリューズの「Respect（尊重）- 他者の尊重」にもあるように、さまざまな価値観を受容し、お互いの多様性を認め合うことで、異なる発想・知恵が混ざり合い、新しい価値を創造する企業を目指し、ダイバーシティ経営を推進しています。

女性活躍推進の取り組み

テルモでは、経営トップがダイバーシティ経営の実現の一つとして、「女性活躍推進」にコミットすることを宣言し、その取り組みを強化しています。日本では、管理職に占める女性比率を、2022年3月末に8%以上にするという目標を掲げ、女性の能力を最大限に発揮できる環境づくりを推進し、管理職としての意識やスキルを高め、多様な視点で意思決定ができる人財が活躍することを目指しています。

テルモグループ全体でも、女性アソシエイトのネットワーク活動など各地の特性に応じたダイバーシティ&インクルージョンに取り組んでいます。その一つとして、2020年より、国連が制定した「国際女性デー」に合わせて、経営層からアソシエイトに向けたメッセージの発信や講演会の開催、グループ各社でのオリジナルなイベントなどを開催しています。



代表取締役社長CEO
佐藤 慎次郎

女性活躍推進に向けてのトップメッセージ

今後、多様なグローバル社会でテルモグループが成長し続けるために、会社の重要課題としてダイバーシティ経営に取り組んでいきます。ダイバーシティにはマネジメントが必要です。さまざまな人が交われば、非効率な面が増えることもあります。そのため、ただ人数を増やしただけでは狙った効果は得られませんが、ダイバーシティを推進していくことで、多様な人財も増え、新しい発想が生まれ、新しい価値が見出されます。数値目標を設定し、マネジメントを行うことで、より効果的な多様性のある社会が実現します。ダイバーシティなくして、企業の成長はあり得ません。



国際女性デーにおける社内イベントの様子(左:テルモタイランド社、右:テルモヨーロッパ社)

アソシエイト・エクスペリエンスの向上

アソシエイトがいきいきと働き、成長しながら能力をフルに発揮するためには、テルモグループで働くことに大きな意義や働きがいを感じられることが大切です。テルモグループでは、テルモで働くことの意義や働きがい、得られる経験である「アソシエイト・エクスペリエンス」の向上を目指して、さまざまな取り組みを推進しています。

健康増進活動のグローバル展開

テルモグループ全てのアソシエイトがいきいきと働き、テルモで働くことにより価値を感じてもらうことを目指し、健康増進活動をグローバルで推進しています。2020年には、グローバルで共通の社内用スローガン“Your Health, Your Happiness, Our Priority”と社内用ロゴを作成し、テルモが重要と考える5つの共通テーマ（Exercise, healthy diet, mental health, prevent & care illness, and family care）を設定しました。このスローガンには、「アソシエイトの健康を守りたい」というアソシエイト同士の想い、そしてテルモ全体としての想い、その両方を込めています。各地の取り組みを互いに学び合い、ともに推進することで、一体感を持って取り組んでいます。

TOPICS

インド、チリ、ブラジル、コロンビアのグループ会社が Great Place to Work*の認定を取得

* Great Place to Work®は、「働きがい」に関する調査・分析を行い、一定の水準に達していると認められた会社や組織を各国の有力なメディアで発表する活動を世界約60カ国で実施している専門機関です。働きがいに関する調査の結果が一定水準を超えた企業をGreat Place to Workとして、さらにその上位企業をBest Workplacesとして発表しています。

人事担当者のコメント

テルモインド社



今回の認定は、RespectとCareというテルモグループのコアバリューズに基づき、企業風土を育んできたことが評価されました。アソシエイトの安全・健康の確保と、事業目標の両立というチャレンジングな状況の中で認定されたことは、私たちにとって大きな励みです。

テルモチリ社

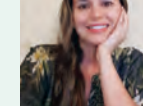
サーベイの実施を通して、全てのアソシエイトの声を把握し、改善が必要な点を理解することができるようになりました。その結果を基に、働く環境やマネジメントを改善することで、お互いを尊重し、信頼できる企業風土づくりに努めています。

テルモメディカルブラジル社



働く環境を改善しようとするアソシエイトの努力、会社がアソシエイトに提供している価値が認められたことを光栄に思います。このサーベイを通じて、人財マネジメントをより改善しながら、風通しが良く、お互いを尊重できる企業風土をつくっていくことを目指しています。

テルモコロンビアアンデス社



アソシエイトは組織を支える柱であり、だからこそアソシエイト一人ひとりに私たちのことを知ってもらい、コミュニケーションを密にして、お互いを尊重し、仲間意識と誇りを持てる企業風土を築きたいと考えてきました。

環境への取り組み

健やかな地球環境を未来へ受け継ぐために

企業の活動は、事業を営む地球の環境やさまざまな資源・エネルギーに支えられています。環境への負荷低減や資源の有効利用は、この地球上で事業を営む企業としての責任であると同時に、テルモグループがこれからも医療を通じて社会に貢献し、持続的に成長していくために必要不可欠な取り組みです。私たちは「テルモグループ環境・安全衛生方針」を制定し、グループ全体で環境負荷の低減や資源の有効利用に取り組んでいます。

気候変動への取り組み

テルモでは、エネルギーの効率化や気候変動対策など、事業活動に伴う温室効果ガス排出量の削減を重要な課題として認識し、グループ全体で取り組みを推進しています。2020年に、新たにパリ協定が求める水準と整合した中長期温室効果ガス排出量の削減目標を策定しました。2030年度目標は、国際的な団体である「Science Based Targets initiative (SBTイニシアチブ)」から、科学的根拠に基づいていると認められ、「WB2°C (2°Cを十分に下回る)水準」として認定されました。2021年11月には、気候変動対策を更に加速するために、Scope1+2目標をSBT「1.5°C水準」の50%削減(2018年度比)に引き上げました。新たに再生可能エネルギーの使用比率に関する目標を設定し、2040年のカーボンニュートラル*実現を目指します。また、「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」のフレームワークを活用し、気候変動が事業活動に与えるリスクと機会を整理しました。(詳細はサステナビリティレポート2021をご覧ください。)

* 温室効果ガスの排出量から、森林などによる吸収量、地下への回収等による除去量を差し引いた合計をゼロにすること。

テルモグループの中長期温室効果ガス排出量削減目標(2021年11月~)

Scope1+2*

- 2030年度までに温室効果ガス排出量を2018年度比50%削減
- 2030年度までに使用電力の再生可能エネルギー比率を50%
- 2040年度までにカーボンニュートラルを実現

Scope3*

- 2030年度までに売上収益当たりの温室効果ガス排出量を2018年度比60%削減



*Scope1:直接排出(燃料燃焼などの自社の排出)

Scope2:購入した電気などのエネルギー生産に伴う間接排出(電力事業者等の排出)

Scope3:Scope2以外の間接排出(原料生産、輸送、廃棄などの他社の排出)

TOPICS

テルモヨーロッパ社ハースロード工場 再生可能エネルギー 100%由来の電力への切り替え

テルモヨーロッパ社(ベルギー)のハースロード工場では、2021年1月より、使用する電力の全てを再生可能エネルギー 100%由来の電力に切り替えました。これにより、2020年度に約0.9千トン(年間想定削減量:約4千トン)の温室効果ガス排出量の削減を実現しました。再生可能エネルギー 100%由来の電力への切り替えはテルモグループの事業所としては初となります。

テルモヨーロッパ社 EHS(環境・労働安全衛生)責任者のコメント

2021年にハースロード工場で使用する電力の全てを再生可能エネルギー 100%由来の電力に切り替えました。その他にも、エネルギー効率の良い生産設備やユーティリティ設備への更新、社有車の電気自動車・ハイブリッド車への更新などを行っています。また、製品の輸送を陸上輸送からCO₂排出の少ない水上輸送へ切り替えるなどサプライチェーン全体での排出削減に取り組んでいます。今後、カーボンニュートラルの実現を目指して、更なるアクションプランの検討を進めていきます。



環境への取り組み

健やかな地球環境を未来へ受け継ぐために

環境・安全に配慮した製品の開発

テルモでは、人にも環境にもやさしい製品開発を促進するための独自の基準「Human × Eco開発指針」を制定し、製品の開発にこの基準を適用しています。この開発指針は、4つの原則「もっとやさしく(安全と安心の提供)」「もっと前へ(医療価値の創造)」「もっときれいに(環境負荷の低減)」「もっと少なく(資源効率の向上)」と、これらの原則に基づき設定された24項目の指針で構成されています。これらの原則・評価項目において特に優れた製品には、自社認定マーク(「Human × Eco」マーク)を表示し、お客様にも分かりやすくお伝えしています。

TRI用イントロデューサーキット

— 低侵襲・医療経済性・省資源

心臓カテーテル治療のなかでも、手首から治療する方法(Transradial intervention: TRI)は太ももの付け根からのカテーテル挿入と比べ、術後の出血などの合併症が少なく低侵襲治療が可能になります。シースをより薄く微細成型することで、外径を細くした新しいコンセプトのイントロデューサーキットを開発しました。血管の細い患者さんへの治療選択肢の拡大、術後合併症に伴う医療費・医療資源の削減が期待されます。

TRI用イントロデューサーキット



血管内超音波診断カテーテル

— 時間短縮・効率向上

血管内超音波診断カテーテルは、血管内の様子を超音波で観察する血管内超音波検査(IVUS)に用いられます。画像の高精細化、画像取得・処理の高速化、操作性の向上などにより、IVUSにおける準備・診断・読影などの時間を短縮。時間短縮により、患者さん・医療従事者の負担を軽減し、より安全で効率的な治療への貢献が期待されます。

血管内超音波診断カテーテル



超高濃度栄養食 — 省資源・QOL向上

少量で多くのエネルギーと栄養素を摂取できる超高濃度栄養食です。一度に多くの食事が摂れない方でも、無理なく少しずつ必要なエネルギーや栄養素の摂取が可能になります。内容液を超高濃度化することにより容量が減り、包装材の使用量を削減し、廃棄物削減にも貢献します。

超高濃度栄養食



輸液剤容器 — 省資源・廃棄物削減

エコをコンセプトにした輸液剤容器です。従来の容器よりも樹脂使用量・製造工程のエネルギー消費量を削減し、製造時のCO₂排出量削減も実現しました。また、容器の重量を従来品比で約23%削減しています。これにより、環境負荷の低減や廃棄重量の削減が期待できます。

輸液剤容器



森林保全の取り組み—富士山森づくり

テルモは、静岡県富士宮市に2つの工場を有し、富士山麓から湧き出る地下水を利用して医療機器や医薬品などを生産しています。自然の恵みを利用して事業を行う企業として、台風で倒木などの被害を受けた富士山の森林を、郷土樹種の植林を通して、災害に強く、また地下水の源にもなる自然林に再生させる活動「テルモ富士山森づくり」を2003年度から行っています。2011年度からは、静岡県、森林所有者、テルモの三者で「しずおか未来の森サポーター協定」を締結し、富士宮市麓地区の「テルモ恵みの森」において植林や森林整備を実施しています。

— しずおか未来の森サポーター協定に基づく活動実績(2011年度～2020年度)—

- 参加人数のべ2,315人
- 活動内容
 - 植林(クヌギ、コナラ、カエデ、サクラ等)計2,765本
 - 間伐材を用いたベンチ・テーブル製作、遊歩道づくり、森林ウォーキングなど



アソシエイトの自主的な取り組み—エコチャレンジ

アソシエイトとその家族がオフィスや家庭で環境に良い活動に自主的に取り組む「エコチャレンジ」を実施しています。参加者の活動実績をポイント化し、金額に換算した上で、公益財団法人オイスカが実施している下記の環境活動プログラムにテルモとして寄付を行っています。2020年度はのべ6,163人が参加し、CO₂の削減につながる省エネや省資源等の7つの活動に取り組みました。

— テルモが寄付を行っているオイスカの環境プログラム —

- 「子供の森」計画(フィリピン)
子どもたち自身が、学校の敷地や隣接地で苗木を植えて育てていく実践活動を通じて「自然を愛する心」「緑を大切にしたい気持ち」を養いながら、地球の緑化を進めるプログラム。
- 東日本大震災復興 海岸林再生プロジェクト
震災で失われた宮城県名取市の海岸林(クロマツ)を植栽し再生するプログラム。



地域社会への貢献

地域社会のいのちと健康を支える

テルモグループは、「医療を通じて社会に貢献する」という企業理念のもと、本業を通じて患者さんや医療従事者に貢献するとともに、良き企業市民として、社会貢献活動を推進しています。医療の普及・発展への支援を中心に、各国・各地域の社会や文化・環境への理解を深め、コミュニティからの期待・要請を踏まえた活動を推進することで、持続可能な社会の実現への貢献を目指します。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策への支援

テルモグループでは、COVID-19対策への支援として、これまでにテルモが事業を展開する世界各地で合計400万米ドル以上の寄付・寄贈を行いました。体温計や心肺補助システム(ECMO)などの自社製品を医療機関に寄贈するとともに、「WHOのための新型コロナウイルス感染症連帯対応基金」など複数の団体に対して寄付を実施してきました。

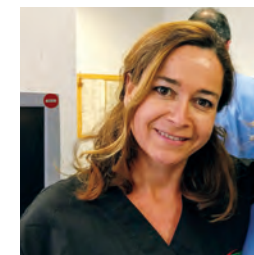
「WHOのための新型コロナウイルス感染症連帯対応基金」は、2020年3月に設立され、WHO財団(WHO Foundation、本部：スイス・ジュネーブ)が幹事財団を務めています。各国の企業や個人から寄せられた寄付金は、世界保健機関(WHO)が取り組むCOVID-19対策に充てられ、ワクチンや検査器の研究、感染拡大防止教育や医療物資の供給、さらに喫緊の社会課題となっているワクチンの公平分配活動や、治療、診断・検査、個人防護具の供給や保健システム強化などに貢献しています。テルモは同基金に対し、2020年、2021年に計200万米ドルの寄付を実施しました。

テルモのグループ会社であるテルモヨーロッパ社では、COVID-19の影響により医療機関が切迫するなかで、医師や看護師などの資格を持つアソシエイトが医療現場でのボランティア活動に従事できるよう、有給でボランティア活動に参加できる制度を導入しました。この制度を活用し、欧州各国で臨床や医療のスキルを持つアソシエイトたちが、病院や高齢者施設などでボランティア活動に参加し、医療現場の活動を支援しました。



スペインの市民保護局でボランティアを行ったアソシエイト

市民保護局のボランティアメンバーとして、COVID-19に罹患した方のために薬を届けたり、高齢者のために買い物に行ったりするなどの支援を行いました。私がこの活動を始めた理由の一つは、一人暮らしをする私の母の近所には私の兄弟が住んでいて、幸いにも、彼らが母を支えることができたためです。同じような状況にありながら、家族の助けを得られない人たちがいることを知り、ボランティアに参加することを決意しました。



スペインの病院で医療支援を行ったアソシエイト

私のボランティアとしての仕事は、血管カテーテル治療を待っている患者さんや、自宅で療養されている患者さんに電話をかけ、様子を聞き、治療開始までの待機期間に耐えられるだけの勇気を与えることでした。患者さんは皆、電話をかけてきてくれたことにとても感謝してくださいました。



新型コロナウイルスに対するテルモの取り組み
<https://www.terumo.co.jp/covid-19/>

世界各国での献血活動

テルモの血液・細胞テクノロジーカンパニーは、血液製剤化技術、アフエーシス治療、細胞処理技術におけるグローバルリーダーです。当カンパニーでは、血液の持つ可能性を信じており、今以上に患者さんに貢献できると考えています。その信念がイノベーションを促し、顧客との協力関係をより強めることにも寄与します。そのような考えのもと、世界中のアソシエイトが輸血治療への貢献を目指すとともに、献血を促進する活動に継続的に取り組んでいます。

血液・細胞テクノロジーカンパニーは、2021年1月より、グローバルに社内献血を推進するプログラム「From the Heart」をスタートさせました。安全でアクセス可能な血液の持続的な供給に貢献すべく、1年間に6,000人のアソシエイトから献血協力を得ることを目標としています。また、同僚や友人、家族などに広く献血を啓発することも本プログラムの活動の一つであり、そのために必要なツールをアソシエイトに提供します。さらに、多くの献血協力が期待できる、地域での献血活動も後援・支援します。



献血や献血啓発活動に参加する各国のアソシエイト



グローバル社内献血推進プログラム「From the Heart」のロゴ

インドで先天性心疾患の子どもたちの早期診断を支援

先天性心疾患 (Congenital Heart Disease : CHD) は、生まれつき心臓や心臓周囲の血管の構造に異常がある病気の総称です。インドでは新生児1,000人に対し約9人がCHDであるといわれており、乳児の主な死亡原因の一つとなっていますが、早期に診察を受けて発見されることで約9割が治療可能とされています。

テルモグループの子会社で、心臓外科手術に使用される人工肺などを販売しているテルモインド社では、バンガロールを拠点とするNGO法人Aishwarya Trustと協力し、子どもたちのCHDを検査で発見するスクリーニングキャンプと外科的治療を必要とする子どもたちのサポートを実施しています。

2020年度は、COVID-19の影響で、アソシエイトの安全性やリソースの確保について懸念があったため、アソシエイトがスクリーニングキャンプを直接支援することはできませんでした。その代わりにテルモインド社は204万インドルピーをAishwarya Trustに寄付しました。この寄付は、Aishwarya Trustが実施した25回のスクリーニングキャンプと、恵まれない子どもたちやハイリスクの子どもたち2,584人へのスクリーニング、CHDと診断された子どもたち74人への外科的治療を行うための資金として活用されました。



スクリーニングキャンプの様子

一般の方を対象とした「テルモ・メディカルセミナー」を開催

テルモは、創立100周年を迎えることを機に、一般の方を対象とした「テルモ・メディカルセミナー」を2021年3月に開催しました。患者さんやそのご家族などを対象に、最新の知見も入れた適切な医療情報を発信し、病気の予防・早期発見・早期治療・重症化防止の重要性を伝えることを目指しています。

今回は2型糖尿病をテーマに、国立国際医療研究センター研究所 糖尿病研究センター長の植木浩二郎先生に、患者さんの状況やライフステージに合わせた適切な治療についてご講演いただき、オンデマンド形式で配信しました。今後も年1回を目処に定期的で開催する予定です。医療に関わる企業として、これからも、患者さんや医療従事者をはじめ、広く社会にとって価値ある取り組みを推進し、人々の健やかで豊かな未来の実現に向けて貢献していきます。



セミナーのスライド(抜粋)